

睾丸マッサージを受けに行ったら我慢汁が出過ぎてスタッフのお姉さんに何回も拭いてもらった

数年前の話、友達の勧めで訪れたのが男性向けのリラクゼーションサロンだった。看板にははっきりと「睾丸マッサージ」と記されていて、下半身の血流を促し、疲れを取る専門コースだと説明されているが、まあ実際は風俗みたいなものだ。建前は健全なサロンだけれども。

当日、個室に案内されると担当のスタッフが笑顔で迎えてくれた。美波さんという20代前

半くらいの女性で、黒髪で、薄いメイクの美人だ。

「美波です。今日は睾丸マッサージの方を進めていきますね。力を抜いてリラックスしてください。痛みや違和感があったらすぐ教えてくださいね」

「はいお願いします」と返事したものの、すでに胸のあたりが少しざわついていた。

ベッドに仰向けになると、美波さんはぬるま湯で温めたオイルを手取る。最初は太もも内側から優しく撫でるようにオイルを塗り広げ、徐々に鼠径部へ指を進めてきた。陰囊の外側に触れた瞬間、体がわずかに強ばる。